

歴史的思考の向上と評価のためのリソースとしての遺産

オランダから省察

担当：星瑞希（東京大学大学院）

▼著者情報

○Carla van Boxtel

アムステルダム大学教授。児童発達教育研究所。文化歴史研究所。

研究関心は、歴史の教授学習。歴史的推論や歴史概念の学習、遺産学習、小グループまたはクラス全体での協同学習の可能性に関する著書を出版。



○Maria Grever

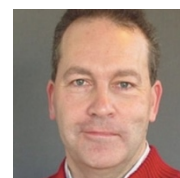
エラスムス大学歴史文化センター長。歴史学の理論と方法論に関する教授。

主な研究関心は、「歴史文化、歴史意識と歴史編纂の理論」、「集合記憶とアイデンティティ」、「君主制、ジェンダーと政治文化」



○Stephan Klein

ライデン大学、教授に関する大学院、助教授。研究関心は児童青年の歴史意識、社会的理解、文化間学習



▼重要な用語

heritage 遺産 (⇔history (歴史)) historical significance 歴史的意義

▼議題

- ・日本だとどのようなものが「遺産」となり、どのような教育プログラムを考えることが出来るのか？
- ・生徒のアイデンティティが関係する問題の評価をどうするか？理解の程度をいかにして測る（見とる）か？

▼概要

○はじめに

オランダにおける集合記憶上重要で公的論争を引き起こす歴史問題：大西洋奴隷貿易

オランダ政府がオランダの歴史上の役割を認めたのはごく最近のことであり、躊躇いながらであった/多くの奴隷の子孫にとっては感情を伴う問題である。

《オランダの学校教育における歴史的意義》

学校の試験と一つの中心となる筆記課題を組み合わせて評価する高学年のオランダ史カリキュラムでは、「今日の意義 (significance nowadays)」という表題のもと2つの要素が組み込まれている。

- ① 過去や現在の社会における異なる集団の人々の過去の意義の変化の理解に着目 *本章で取り上げる
- ② 人々が過去について道徳的判断する際の、多様な現在における動機や、価値、期待を認識することに着目

・「今日の意義」は現代社会における遺産を扱う実践に焦点に当てている。

・学問としての歴史と遺産としての歴史の差異 (Bodnar,1992;Lowenthal,1999) や、これらの実践間の関係 (Lee,2004;Rüsen,2007) はこれまで多くの研究がある

▶遺産を歴史の教授学習に使用する際に、生じる問い

- 1) 学校の歴史は学問アプローチと遺産アプローチをどの程度反映すべきか?
- 2) 生徒の現代的意義理解の向上や評価のためのリソースとしていかに遺産を用いることができるか?

○オランダの歴史教育:学問アプローチの継続

○オランダでは歴史的思考の教育や評価については長年の蓄積

- ・1993年には試験に二次概念が導入
- ・1990年代後半の新しい歴史の試験プログラム実施後にはすべての歴史教科書に様々な資料や歴史的思考スキルを育成するための課題が掲載。

○歴史を概観する時間が減っていることを憂うものもいる

- ・21世紀に入って、作業委員会が歴史カリキュラムにおいて継続的に概観を行うことを提案 (Van Boxtel & Grever,2011;Wilschut,2010)



→2015年には、国家中央試験で初めて歴史の概観知識を問うようになったが、この移行は歴史的思考や推論のスキルの評価のカリキュラムのセクションの最定式化を伴った

→現在では、試験は3つのクラスター (時間、解釈、今日の意義) で構成されている

・時系列の参照枠は政府のオランダ史の「純正な正典としての歴史」を強化したいという政治的圧力により問題を抱えている。

→学校では正典から50の「窓 (windows)」(具体事例)を用いて、10つの時代の枠組みの主な特徴を描写しなければならない。

→正典の窓を教えるリソースとしてローカルな、国家規模の遺産 (博物館、メモリアルセンター、遺産) が学校にもたらされている。

*しかし1990年代以降、オランダ中等学校の高学年の上級学年の歴史カリキュラムが歴史的思考や推論の発達にかなり配慮した特徴となっている。

○現代的意義の理解を向上、評価するための遺産の使用

・オランダのカリキュラム、特に「今日の意義」は遺産を通して現代的意義を学習、評価するためのいくつかのアプローチを提供している。

・本章では、これらのアプローチのうち2つを、最近開発された「大西洋におけるオランダの奴隷貿易と奴隷制」に関する歴史ウェブサイトからの実例を用いて詳述する。

多様な視点:エルミナ城と奴隷博物館

・「今日の意義」は生徒が現代の人々が歴史の中の特定の出来事や、発展、問題に関心を寄せる様々な理由を理解できるようになることが目標とされている。

【歴史的意義に関する先行研究】

・現在に關係する歴史的思考を概念化する際に、それは意義を付与することに由来するものの1つとして言及がなされるが、この現代のカテゴリーとの關係性を精緻化するものもわずかにいる。

例：Lévesque（2008）は歴史家のコミュニティでは使用されていない基準を記述する際に、「記憶上の意義（memorial significance）」をいう用語を使用し、密接な関心、象徴的な意義、現代の教訓を例としてあげる。

・プロジェクトでは人々が現代的意義を持つ理由を理解したのちに、生徒は多様な集団間で何が重要だと見なされているかを理解しなければいけない。

ウェブサイト上の活動

1) エルミナ城（ガーナにある大西洋奴隷貿易に関する最も重要な場所）に関する活動

・生徒ははじめにより大きな集団を代表する4つのタイプの人々を紹介される

- ① エルミナ城で輸送された人々の子孫であり、大西洋奴隷貿易の時代に密接な繋がりを感じるスリナム・クレオール人のバックグラウンドを持つ旅行者
- ② エルミナ城の近くの村で観光客にボートを貸すことで利益を得ている人々（輸送された人々の子孫ではない）
- ③ バラクオバマとミシェル夫人（ミシェル夫人は大西洋の奴隷の子孫）
- ④ 前皇太子（現在、国王）であるウィレム・アレクサンダーとマキシマ妃（奴隷貿易に深く関与していた国を代表して2002年に訪問）

→生徒はこの4人に関する引用を読み、引用と人物の關係に関する質問がなされる

*ここでの狙いは子どもたちに、ある（いくつか）の物理的場所が現代において、少なくとも何らかの形で訪問者の個人の（文化的、経済的、政治的）バックグラウンドどのように異なる見方や感情を誘発するかを学ぶこと

2) 生徒の視点の多様性を予測する

【奴隷に関する遺産の生徒の意義の視点に関する研究】

e.g.,Savenjie,2011;Savenjie,Van Boxtel & Grever,2014

生徒は多様な視点（生徒のアイデンティティと関連のある）から現代的意義を教室に持ち込むことを明らかにしている。

・ウェブサイトでは、2つのステップが設定されている。

i) 生徒は5つの奴隷のモニュメントの写真を、それが何を表しているか、どこにあるかといった情報なしで与えられ、感じたことを選択肢（例：私はこれが奴隷を記憶するモニュメントとして好きである）の中から選ぶ。記念碑に関する新しい写真が生徒に提供され、生徒はモニュメントが何を表象することになっているのか、どこにあるのか、いつ建てられたのかを学ぶ

ii) 問いが設定「どの記念碑があなたに最も関係がありますか？あなたの答えを述べてください」

→教師は生徒が自らの社会的、文化的アイデンティティと関連づけてそのトピックやその現代的意義に関わるかについての議論を組織することができる。

・中等学校高学年の生徒であれば、彼ら自身のアイデンティティや彼らの考えに影響を及ぼす方法につ

いて顧みることが可能である。

古いアフリカの像:伝記と意味の変化

・遺産は生徒が、意義が時間をかけて変化することをより良く理解するためのリソースとして用いることも可能である。

《伝記のアプローチ（継続と変化の学習を促進するのに適している）》

課題はある女性の像の変遷（ベナンの古い都市→西インド会社の煙突棚→博物館の倉庫→博物館の目立つ展示）を再構成させ、所有者が替わった際に、その像に付与された意味の変化についてふり返らせる

・実践の理論的根拠

生徒は記念碑が作成された年代や価値観を反映しているのもであると理解しているとは限らないので（Nemko.2009;Seixas & Clark, 2004）、生徒はモニュメントがある立場を反映し、時代の産物として考えることも学ばなければいけない。

評価の問題

・ウェブサイトでの活動の目的はこうしたタイプの理解を評価することではないが、生徒の現代的意義の評価はウェブサイトが提供するこうした活動や、博物館、モニュメント、追憶の場への訪問といった活動の後に行うべきである。例：口頭発表や振り返りを書くこと

→生徒は歴史的文脈における異なる、そして変化する視点を、（時系列で概観する知識を用いながら）識別し、説明するように求められる

*遺産に関する実践がリソースとなる多肢選択式の問題を開発することさえ可能かもしれない。

例：VanSledright（2014）が説明するような、いくつかの答えが可能であるが、最も説得力のある選択肢が最も加点されるような多肢選択式

○結論と考察

・生徒たちは学校の外の日常生活で遺産に出会っており、自ら遺産に関する実践の参加者となっている
→生徒の歴史的思考や推論の能力を学校環境外部の場面に転移させることを望むなら、遺産を歴史学習の有用なリソースとして考えるべきである。

遺産を用いた歴史教育の今後の課題

- ・現代的意義の理解が何を意味するのか、どのような派生型がありうるか詳細な記述が求められる
- ・生徒の進歩を査定するために、理解のレベルを識別する必要がある。